

プラスチック化学リサイクル研究会ニュース No. 1
Research Association for Feedstock Recycling of Plastics, Japan

プラスチック化学リサイクル研究会発足



廃棄物からの熱回収や資源回収への社会的要請の高まりに対応して、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法などが整備され、廃プラスチックの処理技術に関する研究開発は産官学それぞれの分野で急速に進みつつあります。一方、廃棄物のリサイクルは新規の技術分野であることから研究者相互の連携は十分とはいえず、官学の研究者は「現実的に役立つ課題を見極めにくい」という問題が、企業側には「研究開発や実用化に必要な基礎的な研究を行うには開発の進行がはやい」という問題があります。産官学の技術ニーズの融合と種々の学協会の連携により、プラスチックの分解または化学サイクルに関する科学技術の発展を目的に「化学リサイクル研究会」が発足しました。明島高司会長(東京理科大学)、奥脇昭嗣副会長(東北大学)、藤岡達慈副会長(プラスチック処理促進協会)、坂田祐作幹事長(岡山大学)を中心に、大学、国公立研究所、民間企業など幅広い分野の研究者、技術者が集まりつつあります。

昨年から精力的の続けられた準備会を経て、平成 10 年 7 月 27 日に東京理科大学記念講堂において設立総会が開かれ(写真 1)、会則の制定、役員を選任、本年度の事業計画と事業予算に関する議案が承認されました。総会に続いて記念講演会が開催され、プラスチッ

クリサイクルと産業政策(通産省基礎産業局 井田久雄氏)、技術開発の現状と将来展望(岡山大学 坂田祐作氏)、最近の研究課題(東北大学 奥脇昭嗣氏)、技術紹介(プラスチック処理促進協会 梶光雄氏、日本鋼管京浜製鉄所 根本謙一氏、宇部興産機械・エンジニアリング事業本部 亀田修氏)など興味深い講演がもたれました。

プラスチックの化学リサイクル技術の開発にはこれまでの製造技術を凌駕するような多様な発想が求められ、研究者同士の交流が不可欠な要素です。そしてこれらの技術は単なる廃棄物処理という枠を超えて、21 世紀のエネルギーや環境とも深く関わりを持つ課題です。現在リサイクル技術の開発に直接携わっている研究者だけではなく、科学者として興味を持たれている多くの研究者の参加を呼びかけます。

廃プラスチックのリサイクルは社会の大きな要請であり、リサイクル技術の活性化に対応するため、当研究会では本年 11 月に第一回の国内研究討論会(岡山大)を、さらに平成 11 年 11 月にプラスチックの化学リサイクルに携わる世界の研究者に呼びかけて第一回のプラスチック化学リサイクル国際シンポジウム(1st International Symposium on Feedstock Recycling of Plastics)を計画しています。